

SYOHEI ニュース 令和6年12月号

病院等経営強化プラン・その6

衣川歯科診療所

1 役割の明確化

- 衣川歯科診療所は、同地域唯一の歯科診療所であり、地域における歯科診療施設としての役割を継続して担います。



2 機能及び体制

- 衣川地域唯一の歯科診療所として、地域住民に対して歯科診療を提供します。
- 高齢者や自分で容易に医療施設を利用することができない「交通弱者」の歯科治療を守るため治療を継続します。
- 介護施設が隣接しているという立地を生かし、入所者の定期的な口腔ケアを行うことで、誤嚥性肺炎の予防の機能も果たします。
- ケアマネジャーとの連携構築により、退院後に在宅で口腔ケアを必要とする家庭や訪問診療が必要な方に対し、適切な情報共有により歯科治療を実施します。

3 病床 : 無床診療所

「歯科業界のトレンドと今後」

衣川歯科診療所 所長 佐々木健

歯科業界には常に「時代のトレンド」が存在します。わかりやすい例えとしてインプラント治療があります。インプラント治療は20～30年前には非常に珍しく、治療を受けるために飛行機で遠方まで行ったなんて話を聞いたこともありましたが、現在ではほとんどの歯科医院でインプラント治療が可能となっています。



次に流行したのは、歯のホワイトニングやマ

イクロデンティストリー（巨大な顕微鏡を用いた精密な治療）です。最近では、デジタルデンティストリーが注目を集めています。光学スキャナーを用いて非接触で歯の型取りを行い、そのデジタルデータを元にCAM（コンピュータ支援製造）でかぶせ物を製作する技術が普及しています。さらに、ワイヤーを使わないマウスピースを用いたアライナー矯正もこのデジタル技術を活用しています。

このように、歯科業界は常に進化しており、多くの若い歯科医師や研修医は、最新の技術を学ぶために東京などの大都市で研修を受ける傾向があるように感じます。しかし、技術が高度になるほど治療は専門的で時間がかかるようになり、保険診療ではカバーしきれない患者ニーズに適した治療法を提供できるメリットがある反面、多くの場合は保険の効かない自費治療ケースとなるため、保険診療自体を提供しないという歯科医院も増えてきています。

一方で、歯科大学では総合的に患者を診られる歯科医師の養成が進んでいます。少子高齢化や歯科疾患の変化に対応するため、地域社会や患者の心理、背景を理解し、ニーズに応じて柔軟に対応できる歯科医が求められています。これからは一つの歯科医院で完結するのではなく、地域の医療機関や介護施設、在宅医療・介護などと連携しながら地域で活躍できる歯科医が必要とされています。このような「総合的に活躍できる歯科医」が、今後の新しいトレンドとなってくるかもしれませんね。

大谷翔平選手ニュース

6.10.31 ドジャースがワールドシリーズ制覇!!

6.11.22 ナ・リーグ2024年MVPに選出される:3回目

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。
令和6年11月28日発行 奥州市医療局医師確保推進室
〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833
市医療局HPにバックナンバーを掲載しています。 第56号

大森分校と三好京三

奥州市衣川下大森

奥州遺産No.14 平成23年11月

『分校は、ひときわ目立つ高台にあった。』——。三好京三の直木賞受賞作「子育てごっこ」の一文を引用した閉校記念碑が、旧大森分校の入り口で静かに出迎える。分校は平成10年に少子化のあおりを受けて、73年間の歴史に幕を閉じた。昭和50年、京三はこの学舎を舞台とし

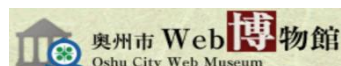


た「子育てごっこ」を執筆。教員を退いた後も京三は大森の地を敬愛し、別邸で執筆を続ける。分校の子供たち

も郷土を愛し、隣の地域に伝わる神楽を学び、地域を代表する「大森御神楽」にまで育て上げた。

閉校後は、衣川小学校児童がその伝統を引き継ぐ。

現在、旧職員室には直筆の原稿など京三ゆかりの品を展示する「三好京三記念室」が設営され、一角には、愛用した碁盤が当時のまま置かれている。京三の大森分校に対する愛情は深く、今も教えは地域に息づく。



奥州市の先人：三好京三

教育者・直木賞作家の三好京三は、旧衣川小学校大森分校などの教育実践に努力した教師であり、また、直木賞を受賞するなど数々の作品を残した作家です。三好京三（本名 佐々木久雄）は、1931年奥州市前沢に生まれた。「俺は小説を書いて愛と友情と平和の素晴らしさを日本中の読者に訴えたい。」と心に決めたのは旧制中学2年の夏でした。太平洋戦争の終戦から10日ほど経っていた。



1950年3月高校卒業後すぐに岩手県北部で助教諭として教壇に立つ。1951年3月に同僚の佐々木京子と結婚する。11年間岩手県北部で勤務の後、衣川小学校大森分校で14年間をすごした。大森分校は、僻地3級に指定された山の中の小さな分校で、授業は1年から3年生までと、4年から6年生までの複々式学級で、京子が低学年を、京三が高学年を受け持った。

1975年10月に大森分校を舞台にした小説「子育てごっこ」が「文学界新人賞」を受賞した。また、僻地教育の業績顕著により、「岩手教育功労賞」を受賞した。1977年2月、小説「子育てごっこ」が第76回「直木賞」を受賞した。「直木賞」を受賞すると急に忙しくなり、作家活動に専念するために、1978年3月、47歳で教師を退職した。

以後は、作家活動に専念する。「直木賞作家三好京三」として本格的に創作活動を始め、数々の作品を残した。主な著書に『分校日記』『いのちの歌』『満ち足りた飢え』などのほか、歴史時代小説に『朱の流れ』『生きよ義経』『北天の十字架』『陸奥黄金街道』『独眼流政宗』等がある。なお、「子育てごっこ」は後に加藤剛と栗原小巻の共演によって映画化された。三好京三は、2007年5月11日、脳梗塞のため亡くなった。76歳であった。